

第4話 TIA(ティーアイエイ)は脳梗塞の前触れ

① 一過性脳虚血発作(TIA)って、ご存知ですか。

アンケートによると、ご存知の人は2割に満たないとのこと。脳梗塞の症状については、第2話でお話しました。この症状が短時間で消えてしまう場合があります。

これをTIAといいます。

Aさんの例をご紹介します。

- 76歳 男性
- 危険因子 高血圧、喫煙
- 病歴 夕食時、箸が使えない、右腕が持ち上がらない、呂律が回らない。10分ほどで回復。安心して、就寝した。翌朝、右手足が動かず、立ち上がれない。会話もできず、救急車で搬送される。その後、薬物治療やリハビリを受けたが、要介護の状態となる。

この程度で受診するの
大げさかな？

夜間で病院は
閉まっているし――

とりあえず、
治ったからね



一体、Aさんに何が起こったのでしょうか？

夕食中の症状は一過性脳虚血発作(TIA)でした。TIAは脳梗塞の警告発作といわれ「すぐあとに大きな発作(脳梗塞)がさしこまっている」と教えてくれていたのです。症状が消えてしまったと、すぐに病院に行かなかったAさん。一晩のうちに重篤な脳梗塞が生じてしまったのです。

② TIA、いったん出た症状がなぜ消えるのでしょうか？

脳の血管に詰まった血栓が、早いうちに運よく溶けて流れてゆき、血流が再開したので症状がなくなったのです。でも再度血栓ができて、短時間のうちに本物の脳梗塞になってしまう危険性は高いのです。

③ TIA は脳梗塞の前触れ

Aさんの例、決して稀ではありません。

TIA 出現後 90 日以内に脳梗塞を発症する危険度は 15～20%、うち約半数は TIA 後 48 時間以内に発症すると報告されています。

英国では、従来 TIA 出現から治療開始まで 20 日間もかかっていた。なぜなら、TIA を緊急疾患として捉えていなかったからです。2004 年に、これを大幅に短縮し、発症 1 日後には治療を始めるといった試みが行われました。その結果、3 か月以内に脳梗塞を発症する人は 100 人中 10 人から 2 人へ、8 割も減少したのです。

④ TIA に対する病院での対応

MRI などの検査で TIA と診断したら、入院し血栓が新たにできるのを阻止する薬を投与して、本物の脳梗塞発症をくい止めます。一刻も早く病院を受診してください。

